

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

野生動物の嫌がる村づくり

サルによる農作物被害は、三重県で年間被害額1億5000万円に上り、全国トップとの中日本新聞の記事。

被害が急増したのは最近10年ほどのことで、昔は今ほど出なかったというところがほとんどです。「10年前まではサルが山から下りて来ることなくてなかった」。ではこの10年間で何が変化したのでしょうか。

農業への被害が問題になっていくイノシシ、サル、シカはいずれも山林に生息し、その山林に接した中山間地域の被害が深刻化していますが、これは山林の利用のしかたが変わったことに一因があると思います。

高度経済成長期以前の里山は恒常的に人の立ち入りがあり、草木全てが薪炭材、家畜の飼料、緑肥などと人々の生活に利用されていて、まばらな植生が帯状に広い面積を占めていて、人の領域と獣の領域の緩衝地帯の役割を果たしていたと考えられます。ところが現在は、獣害の発生する農耕地に隣接する林地は多くのが放置されて、暗い自然林状態、あるいは藪となっていて、これは野生動物が姿を見られずに近づき、追われても逃げ込むことが容易で、野生動物の側にとっては農地に出やすい環境となっています。

そこで、このような林

50匹前後の群れが約130グループいるとされるが、隣接県との行き来は自由だし、群れの遊動の実態は把握できていないとのこと。

個体密度が高い地域は被害も多発しています。それらの地域を中心に捕獲駆除を視野に入れた、被害対策を早急に講じていく必要があります。

なにはともあれ、地域住民の被害抑止への意欲向上と、獣害対策を重視した環境整備が急務だと思います。

シカ急増と生態系

最近、山に行くとき登山道の近くにイノシシによる掘り返しの跡を広範囲に見るようになったし、又タ場の数も以前よりも増えています。また、サルも数が増えているように思います。

これの10年間で緊張関係を保つ最前線、つまり山際の耕作条件の悪い農地から撤退（耕作放棄）し始めた時から獣害がはじまったような気がします。中山間地域の環境は、野生動物の楽園のような状態になっています。

畑には沢山食べ物があリ山で少ないエサを探すより楽に採れる。

過疎化・高齢化が進行、狩猟者の減少などで追払いの危険が減少し、里が安心な餌場になっている。集落・農地の周りに隠れ場となる山林が接近。里山の放置、耕作放棄地の増加で里に出没しやすい環境になっている。三重県の調査では現在、

き延びようとしています。シカのような大型草食獣の個体数が増加しつづければ、自然の生態系に大きな悪影響が生じてきます。今、全国的にシカが急増し農業被害は無論のこと、生態系のバランス崩壊が心配されています。同じ草食獣のシカとノウサギの食物連鎖の関係を見てみましょう。

背の高いシカは、地上から2m近い高さまでの植物を食べることが出来、食べるものなくなると落ち葉まで食べ尽くすと言われています。一方ノウサギは、せいぜい地上から50cmぐらいの高さにある植物しか食べることが出来ません。これではノウサギは生きてはいけません。ノウサギがいなくなるといことはそれを主要な餌としていた猛禽類にも影響が及ぶことを意味し生態系にもおきな影響を及ぼします。

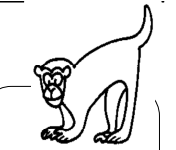


『フクロウ』シカネットに絡む

3月7日シカネットにフクロウが絡んでいると「MDC 畠山さん」から連絡。「鳥をよく識っている」人と呼ばれ、ご近所の人たちのご協力で、無事放鳥することが出来ました。今後、非対称動物に影響を及ぼさない対策も講じなければならぬと痛感しました。防鳥用ピカピカテープなどどうでしょうか？

MD 訓練士養成

MD 育成訓練士養成講習も開始以来6ヶ月。悪戦苦闘のなか順調に経過しておりますが、年度をまたぐ継続予算は執行できないというところで、年度末でMD育成訓練士は一旦打ち切り、25年度予算の執行後（7月頃）再開となるそうです。



サル口
不法侵入



訓練参加者の声。
「順調に滑り出した今、この3ヶ月というブランクは非常に痛い！。年度をまたぐ継続的な予算が組めないものか？」と。

最近、竜口周辺にサルの出没が目立って多くなっています。

原因は、防護不足や餌になるものが豊富なことが考えられます。

聞くとところによると、農業被害もさることながら、家屋侵入が2週間に4回も発生し被害も甚大化して深刻な状態です。部屋のなかで暴れまくり糞・尿垂れ流し、部屋中が獣臭で我慢が出来ない状態。糞・尿の垂れ流しで殆どの家が畳替えをしなければならぬという経済的にも深刻なことが起こっています。

人間とサルの間の緊張関係が崩れているような気がします。人間とサルの間の緊張関係は常時必要で、それがなくなればサルは人間の生活圏を侵犯するようになります。

今のところ、人的被害は出ていないが、転ばぬ先の杖、早急に対策を講じるべきです。

竜口周辺でMDの複数追払いを集中的に行うのも一つの手段だと思います。

サルの出没状況 名張A・B群

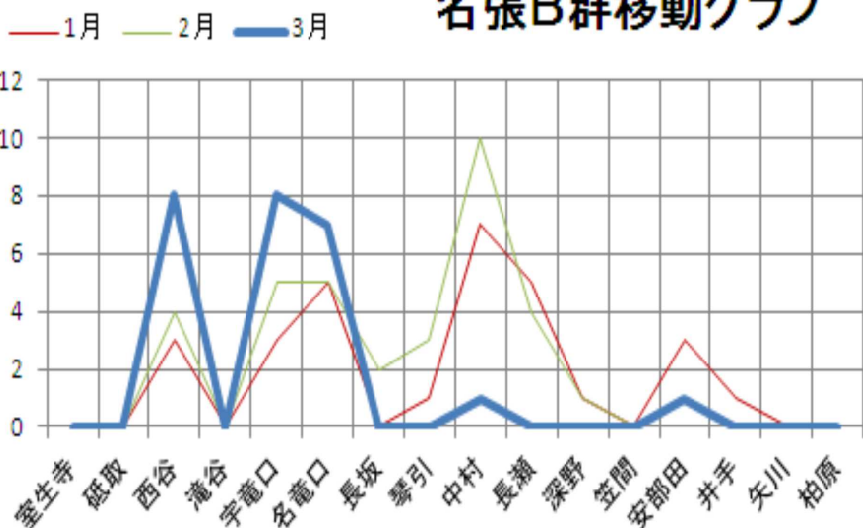
A群
冬枯れで、エリア内の餌が不足しているため、広範囲に餌を求めて小頭数で移動している。

青蓮寺湖付近ダントツに多いのはなぜかな？

B群
餌不足のため、比較的餌の豊富な場所に集中しているようです。B群には、家屋に侵入するたちの悪いのが何頭かおり大きな被害を出しています。両群とも人慣れが進み人間との緊張関係がなくなっています。これからは「本気で追い払う」ような心がけて下さい。「しっしっ」ではサルにあなどられるだけです。

☆A群で有名な白猿は死んだ模様。

名張B群移動グラフ



名張A群移動グラフ

